令和３年度
学校だより
ＮＯ．１０
Ｒ３．１０．２９

南小っ子

かしこく　なかよく　げんきよく

甲府市立中道南小学校
（児童数７４名）
編集 校長 小林 和仁

全国学力・学習状況調査について

本年度の全国学力・学習状況調査は、５月２７日（木）に６年生を対象として、教科に関する調査（国語・算数）と、学習環境や生活環境に関する調査（質問紙）の２種類が行われました。この調査は、①児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題の検証と改善を図る②学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる③教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するという３つの目的で行われているものです。本校の調査結果の概要と今後の取組についてお知らせします。

本校の学力・学習状況調査の結果について

Ⅰ　教科に関する調査結果（国語・算数）

【本校の結果】（全国や山梨県との平均正答率比較）

＊文部科学省では、平均との差±５％を微差とし、「±５％の範囲内は、ほぼ同等とする」としています。これを基に、＋５％を「上回っている」－５％以下を「下回っている」と表記します。

国語　：　県平均を上回り、全国平均とほぼ同等です。

算数　：　県平均とほぼ同等であり、全国平均を若干下回っています。

Ⅱ　教科における主な課題点と今後の取組

今回出題された中から、県や全国の平均正答率が低く、本校としても課題として考えられる問題は、次の通りです。　※【　】内は、学習指導要領における内容や領域を示しました。

◆国語◆

１　目的に応じて、文章と図を結び付けて必要な情報を見付けることができる。
【５・６年：思考力、判断力、表現力等　「読むこと」】

〔設問２の三〕・面ファスナー（傘やくつなどの製品の布製の留め具で、脱着が容易なテープ）の発明から用途まで、文章や図、挿絵で書かれた資料を読み、開発者が何をヒントに、どのような仕組みで作り出したかについて、条件（①面ファスナーのくっつく仕組みがわかるように、②資料の中の文章と、仕組みがわかる図から言葉や文を取り上げて、③決められた範囲の字数内で）に合わせて書く

２　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
【３・４年：思考力、判断力、表現力等　「読むこと」】

〔設問２の四〕・面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているかについて、

条件（①面ファスナーのよさを取り上げ、②資料から言葉や文を取り上げ、③決められた範囲の字数内で）に合わせて書く。

３	文の中における修飾と被修飾語との関係を捉えることができる。 【３・４年：知識及び技能　（１）言葉の特徴や使い方に関する事項】

〔設問３の三（２）オ〕・「遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう」の「すぐに」がくわしくしている言葉を選ぶ。

今後の具体的な取組

１「読むこと」について、学年ごと次の事項についての指導を丁寧に行う。

・１・２年：「文章の中の大事な言葉や文を考えて選び出すこと」

・３・４年：「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」

・５・６年：「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること」

２　文章の構成や表現を生かしたり、自分の言葉を用いたりして、文章を短くまとめることを取り上げることで、「要約すること」について指導をする。

３　日常的に、正しい主語と述語の関係を意識して文章を書くように指導し、３・４年生からは、修飾と被修飾との関係について取り上げて指導をする。

◆算数◆

１	速さを求める除法の式と商の意味を理解している。 【５年：変化と関係　速さの意味や表し方の理解】

〔設問１の３〕・道のりを時間で割った商からどんなことがわかるかを表した文章を選択する。

２	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。 【５年：図形　図形の面積の計算による求め方の理解】

〔設問２の３〕　・二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。

３	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。 【５年：データの活用　帯グラフの特徴と用い方の理解】

〔設問３の４〕・帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を言葉と数で書く。

４	基準量を１としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できる。 【４年：数と計算の活用　ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知る】

〔設問４の３〕・「３０ｍを１としたときに１２ｍが０．４に当たるわけを書く。

今後の具体的な取組

1　５年生以上の「速さ」などの単位量当たりの大きさの理解については、公式の理解だけでなく、異種の数量の関係について、比べたり表現したりしながら日常的に考えさせるようにする。

2　４年生以上の図形の面積を求める学習では、公式の理解だけでなく、求め方を筋道を立てて考えたり説明したりする場面を繰り返し取り入れることで定着を図る。

3　５年生において、円グラフや帯グラフの用い方について丁寧に指導するとともに、グラフのどの部分に着目して特徴や傾向を読み取ったのかを説明する場面を取り入れていく。

4　４年生において、整数を用いた倍の意味を捉え直し、小数を用いた倍についても、基準量を１とした時に比較量がいくつに当たるかという意味について理解が深まるように指導する。

Ⅲ　質問紙調査の結果から　（県・全国と比較してよかったもの）

〈基本的生活習慣に関わること〉
- 朝食を毎日食べている。

〈自分に関わること〉
- 自分にはよいところがある。
- 人が困っているときは進んで助けている。
- 人の役に立つ人間になりたい。

〈学習に関わること〉
- ５年生までの授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。
- 友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 算数の勉強は大切だと思う。

〈学校生活に関わること〉
- 学校に行くのが楽しい。
- 友だちと協力するするのは楽しい。

〈地域に関わること〉
- 地域の行事に参加している。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。

Ⅲ　全体としての取り組み

（1）　「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、子どもが知りたくなるような授業課題を設定し、課題に沿った自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、共有できる授業づくりができるよう、教職員がさらに研究を深め、授業実践をしていきたいと考えます。

（2）　家庭学習として取り組んでいる「南小がんばりノート」は、自分の学びを振り返ることを重点に取り組んでいます。振り返ることは見通しを持たせたり次につなげたりするために大切なことです。家庭学習のねらいを再確認し、自分から進んでやる学習、できることを増やしていく学習になるよう、適時・適切に指導をすることで、学びの質を高めていきたいと考えます。

（3）　学校生活の中で、子どもたちが自己有用感や自己肯定感を持ち、希望や目標を持って生活するためには、環境づくりが大切です。努力や前向きな姿勢を積極的に認め、子ども同士が認め合い、助け合えるような親和的な学級づくりが持続していけるよう、あたたかくきめ細かい生徒指導に努めていきたいと考えます。